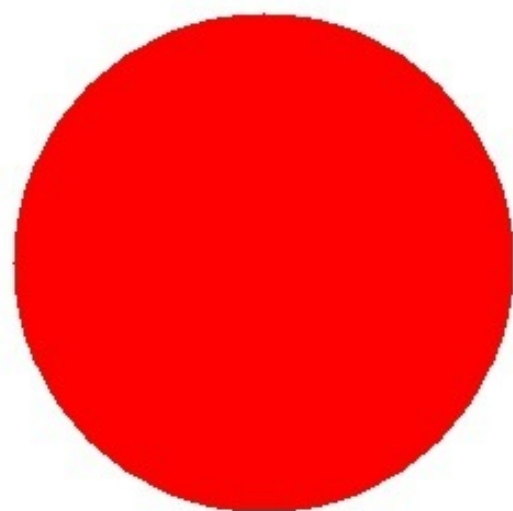
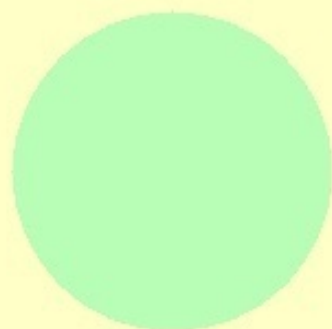


放射戦士 ”シーベル”と”ベクレル”

3.11シリーズ II



咲.

ヒーローの決め技は、一話1回……と、それは、業界の暗黙の了解事…だった。

「100回に増やすぞ！決め技！！」

監督のヤマシは、事もなげに言い放った。

スタッフ達は、驚きを隠せない。

「100回…！？いくら、なんでも……」

いくらなんでも、それでは【敵】に過酷すぎる……。

だが、相手は業界でも有名な、ヤマシ監督である。反論を口にする者は、誰一人いなかった。

「100回…ですね？主人公シーベルの決め技は、100回…。即刻、脚本の先生に書き直しの連絡を…！」

助監督の声に、ロケバス内は、急に慌ただしくなった。

『ハウシャ戦士シーベル』は、三月から始まった、特撮ヒーロー物である。

その道では大御所の、ヤマシを監督に起用したにもかかわらず、視聴率は低迷していた。

「華が、無いんだよなあ」

ロケバスの天井に貼られたポスターを見上げながら、ヤマシは呟いた。

「こう…変幻自在の、技の多い味方キャラが、欲しいよなあ…」

「内部破壊専門の、”ベクレル”ってのは、どうっすかああ？」

耳ざといコハシが、声を上げた。

「”シーベル”の技は、外部攻撃だけじゃないっすか！【敵】は、超大型なんですよ？

体内に入り込んで攻撃…ってのも、アリじゃないっすかねえ…」

CG担当のコハシは、リアル重視のヤマシの仕事に、不満を持っていた。

（アクションシーンなんざ、CG使えばもっと、ありえねーっ！！て迫力、出せるのによお…。

ロートル野郎の頭の硬さには、辟易するぜえ……）

「それで…ですね！」

聴いているのかいないのか、無表情のヤマシを前に、コハシは話を続ける。

「攻撃場所によって、技を使い分けるんですよ！」

【敵】の骨格には、スト○ンチウムボンバー。動力部には、セ○ウムビーム。プラト○ウムは…
そうだな。直接攻撃ばっかじゃ能が無いから、ミスト噴射で排気システムを、じわじわと破壊する、とか…」

これだけ多彩な攻撃シーンを映像化するには、実写では、機材や撮影時間に無理が生じる。

そう…今度こそオレの、CGの出番だ…！！

コハシは、心の中でほくそ笑んだ。

「そんなに攻撃をかけたら...シーベルの出番を待たずに、【敵】は倒れてしまうのではないかね？」

【敵】を倒すのはあくまでも、主人公であるシーベルでないと、視聴者は、納得しないと思うのだがねえ...」

しまった、調子に乗りすぎたか...

鼻白むコハシを一瞥しながら、ぼそり、とヤマシは呟いた。

「だがまあ...【敵】にも回復や防御のチャンスを、与えればいいだけの話、だな。

ジト○バリアーとかアエント○バキュームとか...」

ベクレルは、妖艶な美女がイイな。

幾人かの女優の名前を、口の中で転がしながら、ヤマシはロケバスから降りていった。

女戦士ベクレルの登場で、『ハウシャ戦士シーベル』の視聴率はグン！と跳ね上がった。華やかな、CG合成の攻撃色も話題となった。

「スト○ンチウムは深赤、セ○ウムは青紫。プル○ニウムは透明の揺らぎで表現.....。

技の名を声高に叫ばないのに、なんの攻撃かが目に見えて判るのは、イイねえ~！！」

ベクレルの、静かな攻撃.....。

”くのー”をイメージしたベクレルの妖艶な魅力は、じわじわと、ファンの数を増やしていった。

同時に採用された、敵キャラの”ドクターマッチポンプGE”が、ベクレルの技を絡めとり、彼女を痛めつけるシーンも、コアなファンを虜にした。

DVDの売り上げも好調で、番組の延期も、検討され始めた頃.....。

好事魔多し。クレームは、意外な所から入って来た。

「F国で、DVDの発売が中止？ベクレルの、攻撃シーンの淫靡さが、クレームの原因だって...！？」

海外の表現規制が厳しいのは、日本でもよく知られていた。海外用に、攻撃シーンを抑えたバージョンが作成されていた筈なのだが、なぜか、日本版がF国に、輸出されてしまったようであった。

「まずいなあ...海外でのクレームは、作品の印象が悪くなる....。

これは...厄介な事になるぞ.....」

案の定、日本での規制は緩過ぎるのではないかと書き込みが、ネット上で増え始めた。

「これは...スポンサー様！！いつも御世話に....。

えっ?...こ...攻撃の回数を、ですか...!？」

番組大手のスポンサーから、攻撃の回数を減らすように...と、ヤマシに電話が入った。

ベクレルのシーンは、視聴者の受けがいい。

シーベルの見せ場を減らすしか、批判を逸らす方法は無い...と、ヤマシは判断した。

100回攻撃への視聴者の反応を、もう少し見たかったが、スポンサーの命令では従うしかない。

20回に減ったシーベルの攻撃は、それでも多すぎる...との、謗りの声を受け続けた。

「ヒーローの決め技は、一話1回で充分だ！」

「そう決まっていたんだ！昔からな！！」

「ハウシャ戦士”ベクレル”.....」

監督のヤマシは、口元を歪め、煙草に火を点けた。

「本当の主演は、シーベルじゃない。そう...ベクレルこそが、真の.....」

ロケバスの天井に伸ばしていた手を下ろすと、ヤマシはライターの火を、剥がしたポスターに近づけた。

視聴者が、いつ、その事に気付くのか.....。

ヤマシの足元で、火の点いたポスターが、チリチリと炎を上げる。

ポスターの端に、【敵：人間】の文字が微かに見え...それは白く炭化し、ホロホロと燃え落ちていった.....。

補足：放射戦士”シーベル”と”ベクレル”

本文中の、比喩や伏字部分の補足です。

★ヤマシ監督：「年間100ミリシーベルトまでOK」と発言した某教授から。

（2011年9月現在）外部・内部被曝を合わせた世界基準値は、年間1ミリシーベルト（外部被曝と内部被曝と自然放射線の影響を合計して）です。現在の日本は「暫定基準の20ミリシーベルト」を使用。これは、原子力事業従事者の本来の基準値にあたります。「100ミリシーベルト」は、癌が発症する可能性が出てくる、とされている数値です。

★コハシCG担当：「プルトニウムは飲んでも大丈夫」と発言した某教授から。

プルトニウムは、肝臓に蓄積されるという指摘が有ります。粉塵状のものを吸い込むと、肺に蓄積し、肺癌の危険性が出るとも言われています。

★ジト〇...&アエント〇...：ジトリ&アエントリ、のこと。体内に入った放射性物質を、対外排出させるための薬の名称（の一部）です。

★ドクターマッチポンプGE：「原子炉を作った会社」（放射能を作り出す側）と、上記の、「超ウラン元素体内除去剤」を販売している会社」（放射能を除去する側）への出資元が、「同じメーカー」なのを揶揄しています。

★F国のクレーム：日本からフランスに輸出されたお茶が（当時）、基準値超えで、フランスの検査で弾かれたニュースのもじりです。

以上、記憶を頼りに書き出してみました。

間違い（もしくは2011年9月以後、変更や改定になった事柄）があるかもしれません。

気付かれたことなど御座いましたら、御指摘いただければ幸いです。

2011年8月31日 第一稿（旧著者名：夏樹）

2013年7月24日 改訂稿（著者名：咲.）

放射戦士”シーベル”と”ベクレル”

<http://p.booklog.jp/book/74716>

著者：咲.

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/saki62e81/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/74716>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/74716>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ